助成・寄付寄贈報告

◆ 会員様より寄贈：「みかん」へ　こたつ・マット
◆ 「公益財団法人 SONPO 福祉財団」様より助成金：「みかん」へ　遊具（滑り台）
◆ 「社会福祉法人 三信福祉協会」様より助成金：「みかん」へ　遊具（ブランコ）
◆ 「みかん」リフォーム業者様より寄贈：「みかん」へ　トトロのオブジェ

厚く御礼を申し上げます

研修会・講演会のご案内

◆ **定期研修会「Be サポ事例研究会」**
研修内容は、原則、奇数月に成人事例のアセスメントを中心としたもの、偶数月に子どもの事例検討を行っています。参加者の皆様とさまざまな意見を出し合いながら、その人らしさを理解し、今後の支援の在り方や方向性を一緒に考えていきたいと思います。

日時：原則、毎月第 3 水曜日 18：30～21：00　　場所：プラサヴェルデ沼津
参加費：Be サポ会員無料、非会員 1,000 円／1 回
参加資格：心理士、スクールカウンセラー、支援員、教員など、守秘義務を課せられた専門職の方が参加できます。
初めて参加される方は Be サポートまでご連絡ください。
今後の予定：6/16（プラサヴェルデ休館のため、会場は「みつばち（沼津市高島町）」を予定）、7/21、8/18、9/15
※この研修会は、臨床心理士資格認定協会の資格更新ポイント（定例型）の申請を予定しています。

Be サポート業務一覧

相談・カウンセリング事業
カウンセリング、プレイセラピー、EMDR、各種心理検査

医療・保健・福祉・教育等 地域機関への協力
母子保健事業（乳幼児健診・発達相談・療育教室）
：伊豆市・伊豆の国市・清水町・長泉町
教育委員会（就学支援・特別支援教育・巡回相談）
：函南町・清水町・伊豆市・長泉町
市民メンタルヘルス相談　：　伊東市・富士市
県および市町主催ゲートキーパー養成事業
県立高校スクールカウンセラー・学校支援心理アドバイザー
NPO 法人静岡犯罪被害者支援センター
社会的養護関係施設第三者評価事業

被災者支援事業
東日本大震災被災者支援活動「OHANA」

不登校・ひきこもり支援事業
沼津市　：　東部圏域　居場所「なごみ」（県委託事業）
伊豆市　：　伊豆圏域　居場所「とっこ」（県委託事業）

企業・事業所への支援事業
メンタルヘルスカウンセリング
企業研修会への講師派遣

研修・啓発事業
専門職対象の定期研修会開催
一般市民対象の講演会開催

児童発達支援事業
障害児・者総合サポートセンターみつばち
----------沼津市----------
保育所等訪問支援　／　児童発達支援「あんず」
放課後等デイサービス「かりん」
----------伊豆市----------
放課後等デイサービス「みかん」

相談支援事業
指定計画相談支援・指定障害児相談支援「び～さぽーと」

Be サポート会員募集中

NPO 法人とは、利益を目的とせず社会や地域のニーズを追求し応える活動を行う団体です。臨床心理士を中心とした有志で Be サポートを設立しました。専門的な視点から地域のさまざまなこころの問題に取り組んでいます。現在、正会員 49 名、賛助会員 3 名（2021.5 月時点）で活動しております。

私たちの活動を応援してくださる会員さんを募集しております。会員の方へは会報誌の送付、研修会や講演会での参加費が優待されます。また地域で働く援助職の方には、ネットワークづくりとしても活用していただいております。会員のご登録をいただける方は Be サポート事務所までご連絡ください。

特定非営利活動法人 臨床心理オフィス Be サポート

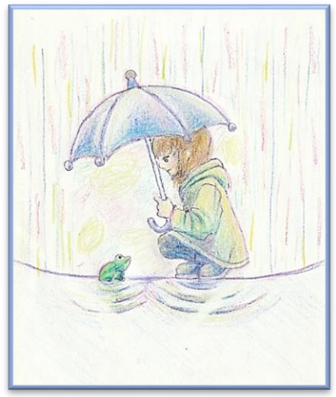
クローバー通信

2021 年 6 月 1 日発行 Vol.26

NPO 法人 臨床心理オフィス Beサポート
〒4100056 沼津市高島町 29-11 盟萌ビル 201
Tel/Fax　055-925-1701
Mail　be-sapo@mail.wbs.ne.jp
HP　http://be2011.jimdo.com/
発行責任者　皆川行寛

- 新型コロナウィルス感染症対策として、Be サポートではすべての事業において「手指および室内の消毒」「常時換気」「マスク着用」「検温」等を実施しております -

『メンタルヘルスの現場における懸け橋』　理事長　皆川行寛


「とっこ」利用者さんの作品

最近、メンタルヘルスに係わる話題は増加しており、内容も多岐にわたっています。うつ病などの精神疾患・人格障害・不登校・ひきこもり・いじめ・虐待・DV・発達障害・自殺等々、挙げればきりがありません。そして、それらが医療・保険・福祉・教育の分野と相互に絡み合い、どこか一つの分野の切り口だけでは、改善が難しくなっているのが現代のメンタルヘルスの課題ではないかと考えています。

そのために我々臨床心理士・公認心理師・対人援助職に求められること、それは問題を縦断的理解と横断的理解で見立てる（理解する）ことです。縦断的理解とは、その人がこれまで生きてきた歴史を知るということです。具体的には、家族歴・養育歴・教育歴・現病歴などがあげられます。今起きている問題だけを見るのではなく、その人の歴史のなかで生じている問題として意識することが大切になります。一方、横断的理解とは、その人を取り巻く現在の状況や環境を知るということです。具体的には、家族の状況・学校や会社での人間関係・経済状況・本人の能力や性格などがあげられます。本人のストレスの要因となりえるであろう情報を丁寧に収集していくことが大切になります。

この縦断的理解と横断的理解を掛け合わせることで、個人と起きている問題を立体的に見立てることで、どのような援助がその人にとって必要かを具体的に考えていくことができるようになります。医療・保険・福祉・教育のどの分野にどのような援助をしてもらえると、その人の生活が安定するのかを見立てていくことができます。

我々法人は、乳幼児健診・療育・スクールカウンセラー・ゲートキーパー研修講師・ひきこもり支援事業など、様々な分野で活動させていただいております。法人を立ち上げて 11 年目にはいり、各分野で様々な人との繋がりもできました。ですから当法人は、その人を支えていくために必要な支援ができる各分野に働きかけ、連携しながらメンタルヘルスを行うための懸け橋になっていきたいと思っています。

法人として、地域の懸け橋の役割を果たすために 3 点必要ではないかと考えています。1 つ目は、現在の各分野の仕事の継続です。近隣市町の行政、発達支援センター、学校関係、保育園・こども園関係など、連携するということを念頭に置いて、現状に慢心せず継続していきたいと思っています。2 つ目は、職員それぞれのスキルアップです。各々の専門分野・得意分野のさらなる研鑽と、問題点だけでなくその人のもっている資源・ポジティブな面に目を向け、生活の質が向上するよう支援していく力を養ってほしいと思います。3 つ目は、法人の中長期目標として就労支援を具体化していくことです。生きるために、その糧を稼ぐことも勿論大切ですが、働くことの喜びを分かち合うことは、人生を豊かにすることにつながると思っています。そのために法人として何ができるか、考えていきたいと思います。

法人の設立から 11 年目を迎え、我々を取り巻く環境や社会情勢も刻々と変化をしています。そんななかでも、変わらず法人を支えてくださっている会員の皆様、ともに仕事をさせていただいている関係機関の皆様には、本当に感謝しております。最後に、新型コロナウイルスの感染拡大が一日も早く収束することを心から祈っています。

令和 3 年度 Be サポート 第 10 回 通常総会のご報告

本年度も、新型コロナイルス感染拡大防止の観点から、会員の皆様には書面評決書にて決議していただきました。

現在の総会員数 49 名、書面評決書は 31 名で、総会員の過半数以上のため、総会は有効に成立致しました。全ての議案に対し承認いただいた書面評決書が 31 名であったため、すべての議案が可決承認されたことをここに報告致します。

活　動　報　告

障害児・者総合サポートセンターみつばち「あんず」

あんずでは、3 月に卒園・進級パーティーをして、卒園や進級をお祝いしました。紙芝居や絵本の楽しいお話を聞いたり、ボール運びのゲームをしたり、おおきなかぶの即興劇をしたり、楽しい時間を過ごしました。そして、それぞれが事前に内容を書いた卒園記念の証書や進級記念の証書を発表しました。卒園生は、ぼく・わたしのすきなもの、小学生になったらがんばりたいこと、おおきくなったらなりたいものを書きました。進級のおともだちは、すきなたべもの、すきなどうぶつやキャラクター、すきなあそびを書きました。

質問内容は多くはないですが、子どもたちの個性がよく出てそれぞれに素敵なものが書けました。去年から在籍していた子は、興味のある事や遊びが大きく変化したことで成長を改めて感じました。落ち着いて自信を持って発表できていた子の中には、以前はみんなの前でお話しすることが苦手でその場に立っていることも嫌がっていた子もいます。小さな集団の中でお互いを意識し合って子どもたちが成長してくれています。

写真は子どもたちが元気な自分のお顔を描くなどして制作した5月の壁面です。

障害児・者総合サポートセンターみつばち「かりん」

毎年 3 月末、小学校を卒業する子どもたちに、スタッフ手作りの写真入りメッセージカードと卒業証書を渡す卒業式を行っています。今年は 5 人の子どもたちが小学校を卒業しました。かりんに通っていた期間で、全ての課題が解決したわけではもちろんありませんが、一緒に遊んだり、話しをしたり、勉強をしたり、笑ったり、怒ったり、泣いたりしながら、その度に少しずつ本人なりの成長を積み重ねていってくれました。中学校に入っても、本人なりの成長を積み重ねて、元気に過ごしてほしいと願っています。

そして 4 月、新しいお友達があんずからかりんに入ってきました。これまで立入禁止だった 2 階に行くことができ、嬉しさ全開です。新しい環境に緊張している子もいますが、かりんのお兄さん・お姉さんに励まされながら少しずつ馴染んできています。もじもじしてしまう 1 年生を急かすでもなく、優しく見守ってくれる子どもたちが多く、スタッフも嬉しい気持ちでいっぱいです。

障害児総合サポートセンターみつばち伊豆「みかん」

4 月に間に合うようにと手配していた庭のブランコ・滑り台・鉄棒も揃い、芝生もようやく青くなりました。シンボルツリーの金木犀の下にはベンチがあり、暑い日に木陰で一休みするのに最適です。新しいスタッフも加わり、子どもたちの様子を丁寧に見守り、関わってくれています。子供たちが安心・安全に過ごし、療育していける環境が、また少し充実したのではないかと感じています。

そして今年の 4 月から、新 1 年生の女の子 3 名が「みかん」のお友だちに加わりました。ピカピカのランドセルを背負って、毎日元気に参加しています。ブランコが特にお気に入りで、芝生の上に転がるのも楽しい様子。お兄さんたちも、優しく遊んでくれています。

畑には、トマト・ナス・キュウリ・ピーマン、ジャガイモ、カボチャを植えました。成長をスタッフも子どもたちも楽しみにしています。

みつばち伊豆の HP　https://mitubatimikan.wixsite.com/website

活　動　報　告

県委託　東部圏域の不登校ひきこもり支援　居場所「なごみ」

居場所「なごみ」は令和 3 年度の静岡県ひきこもり支援センター居場所設置運営事業委託先として再委託されることとなりました。それに伴い開所時間が 10 時～15 時となり、無料で利用できるようになりました。利用を希望される方は静岡県ひきこもり支援センターへ申し込んでいただき、そこから「なごみ」へつながる流れとなっています。

当事者の方が就労するなど次のステップに進んだとしても、孤立していたり、仕事や人間関係がうまくいかなくて落ち込んだり悩むことで、再びひきこもってしまう可能性も否めません。「なごみ」では就労は次のステップであって「卒業」ではないので、ずっと関係を持ち続け、受け入れていく姿勢でいます。過去には、県外に就労された方がいて静岡県の支援対象者ではなくなりましたが、毎月のお便りを続けて送っていたところ、夏休みにふいに訪ねてきてくださったり、ステップアップのために資格試験を受験する勢いをつけたい！と来られる方もいます。お便りを送り続けた効果があったなと感じています。

さて、「なごみ」では、3 月末に沼津深海水族館に行ってきました。行きは EV バスに乗ってゆっくりと沼津の街並みを見ながら現地に着きました。館内は写真が取れないので、深海の珍しい生き物やシーラカンスのはく製などは載せることができませんが、利用者・スタッフともども珍しい生き物を見ながら楽しく過ごしました。4 月には恒例のお花見をしに、近くの公園に行きました。桜をめでた後は、四葉のクローバー探しをしました。小さいですが、何とかひとつ見つけることができました。

県委託　伊豆圏域の不登校ひきこもり支援　居場所「とっこ」

「とっこ」は、新型コロナウイルス感染症対策を続けながら 4 年目の活動を始めました。

新しいステップに進む最中にある利用者さんが「とっこ」の暖簾の刺繍を続けてくれています。みんなが脱帽する美しい技です。そして外出し辛い時でも電話で利用者さんとお話しできることが嬉しいです。

LED ライトを使ったステンドグラス風ランプ、和紙が素材のランプシェードを何回かに渡って作りました。どの作品も提案したスタッフより緻密な出来栄えです。また利用者さんが教えてくれた折り紙を、みんなで合体させて小箱が完成した時は拍手が起きました。ボードゲームやスマホで撮った写真、手作りの新聞を観ながら話しは膨みます。5 月には華道でカーネーションを生けてみました。

今後も関係諸機関の皆様と連携し、「なごみ」「みかん」と繋がりながら、利用者さんにとって穏やかな居場所づくりを進めていきたいです。窓から見える景色は緑濃く、川の音や風に季節の歩みを感じます。のどかな近隣への散策を思案中です。

「みかん」の遊具購入に対して、助成金をいただきました

昨年 6 月に事業を開始した「みつばち伊豆・放課後デイサービスみかん」は、皆様のご協力を得て一通り物品が揃い、園庭も整備できました。あとは、周囲に公園のない環境なため大型遊具が欲しいと希望していました。この度「公益財団法人 SONPO 福祉財団」様と「社会福祉法人 三信福祉協会」様から助成金を頂き、春休みに立派な滑り台とブランコを設置できました。また、建物をリフォームしていただいた業者さんから、かわいいトトロのプレゼントもありました。

体を使った運動は発達促進につながります。また、決まりや順番を守ることなど社会性を学ぶ機会にもなります。遊具を使って、より効果的な療育を目指したいと思います。